

職員の皆さんへ

いよいよ桜満開の春が市内の名所を美しく彩り、地域全体に躍動感が漲っています。そして本日、新年度のスタートを迎えました。

さて、このたびの人事異動につきまして概略申し上げます。

まずは退職された寺田勝嘉副市長の後任として、さきに長崎県労働部次長を最後に県職員を退かれ、そのあと乞われて長崎県物産振興協会の専務理事として、また直前までは本県のシンクタンクであるながさき地域政策研究所事務局長として公益的業務に就いておられた町田和正さんにご就任いただきました。

市内生月町のご出身で、前副市長と同様に市民にとって馴染みのある方もあり、豊富なご経験と高い識見、幅広い人脈をもって今後の市政の発展に大きくご貢献いただけるものをご期待申し上げているところであります。

職員の人事としては、第二次定員適正化計画を念頭に、退職者の補充については必要最小限に止どめながら、職員の適正配置と人員体制の見直しを図るとともに、女性職員の活躍を推進するために新たに女性 1 名を含む課長職として 5 名の職員を配置するなど適材適所の異動を行いました。

その中で、増員する部署については、農林課に産業振興公社（仮称）設立準備のために 2 名を、福祉課に、ねんりんピック開催準備のために 1 名を、市民課に度島連絡所の窓口業務検証のために 1 名を、そして企画財政課のふるさと納税班には寄附金の増加が予想されることに対応するために 1 名を、それぞれ配置しました。

一方、教育委員会の各分室においては、公民館として組織再編を行い、現在、市内 5 公民館（北部、中部、南部、生月、田平）の館長については、社会人としての経験と即戦力を兼ね備え、更にはその地区の事情を良く知る人材を期限付嘱託として配置しており、大島については引き続き選考中であり、しばらく正規職員が兼務することといたします。

さらに長崎県との人事交流につきましては、新たに農林課長として受け入れ、本市からは県農林部に 1 名、県北振興局に西九州自動車整備促進のた

め 1 名、長崎県後期高齢者医療広域連合に 1 名、それぞれ派遣することといたしました。

さて本市は昨年、市町村合併 10 周年の節目を経て、新たなるスタートを迎えましたが、合併直後の財政危機宣言という厳しい現実を正面から受け止め、議会のご指導をいただき行財政改革を進めながら、皆さんとともに全力を傾注して効率的かつ効果的な行政運営に努めてまいりました。

さらにその後も弛まず平戸市の持てる潜在能力に磨きをかけながら全国にその魅力を発信し続け、昨年度までには全国的にも秀でたふるさと納税制度の活用を図ることで、多くの平戸ファンを惹きつけた輝かしい実績を残すことができました。

この間、財政四指標も劇的に改善され、同時に地元選出国會議員および市議会のご協力のもと、普通交付税の合併算定替えによる減額の緩和や特別交付税についてもこの数年微増ではありますが減額されることなく安定した財源手当てがなされていることも喜ばしい限りです。

しかしながらその一方で、少子高齢化や人口減少は依然として顕著であり、この流れに少しでも歯止めをかけながらそれぞれの地域に活力を取り戻さなければならないことは言うまでもありません。

まさに今年度からの新たなる 10 年は、平戸市総合戦略に基づき、市民の皆様「ここに生まれてよかった」「ここに嫁いでよかった」「ここに住んでよかった」と思っただけのようなふるさとづくりに邁進していくための重要な節目のスタートであります。

特に、これまで進めてきた地域コミュニティづくりについて、先行する度島地区に続き、生月、大島、田平各地区において具体的な段階に進められておりますし、南部や中部地区にもその広がりを確実にしていく必要があります。

そして本年度は、J R 九州が主宰する「デスティネーションキャンペーン」事業との連携、ねんりんピック長崎開催におけるゲートポール競技の受け入れ、そして県内で初めて開催されるセンサ・マイクロシンポジウムの開催など交流人口増大のチャンスが断続的に降り注いでいきます。

こうした受け入れ体制を確実なものにしなが、一方で「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の世界遺産登録についても、政府によって一旦取り下げられましたが、長崎・熊本両県および関係 6 市 2 町とともに 2 年後の実現に向けて万全の準備を整えるとともに、全国の視聴者が楽しみにしているテレビ番組『劇的ビフォーアフター』によるレストハウス改修事業なども完成へと導かなければなりません。

いずれにしても、平成 26 年度のふるさと納税寄附額「日本一」という快挙以降、全国の自治体関係者が「平戸市は次に何をしかけてくるだろうか」と注目しており、私たちは終わることのない地域間競争に打ち勝つためにも、いささかも気を緩めることなく、新たな挑戦に積極果敢に向かわなければならない立場にあります。

まずは「安心安全のまちづくり」を基本として、楽しく元気で笑顔のたえない支えあいを実現し、活力溢れる産業基盤を築いていくことこそが、選抜される自治体に進化することに間違いありません。

それぞれ職員が入れ替われば、当然のことながら職場の雰囲気も変わります。各部局においては、今回の異動によって更なるチームワークづくりに励み、常に明るい職場環境の中で、それぞれのやる気と能力を引き出しあいながら、心機一転、市民の信託に応えられる体制づくりを構築していただきたいと思います。

そして平戸市が本来有している様々な優位性を市民の皆様と共感・共有しながら、協働のためのチームづくりの実現のために、より多くの人から愛され、親しまれ、訪れたくなるまちづくりに向かって努力してまいりましょう。

以上、新年度における職員の皆さんの活躍を期待して、年度当初の挨拶といたします。

平成 28 年 4 月 1 日

平戸市長 黒田成彦